

俳句コンクール成績発表

S 25 専電 塚越 としを

〔兼題・時雨・寄鍋・水鳥〕

【特選】水鳥の諷ひ聞こゆ宿今宵

S 30 学機 檜山 邦良

評 喧騒な都心を離れた郊外の鄙びた宿でしようね。近くの水辺から水鳥の騒ぎが聞こえます。何でしょうか？ 水鳥との一体感が生まれています。

【佳作】谷ひとつ向かひの山は時雨るるか

〃

（彼方の雲は時雨催い、どうも雨は隣の山を通り抜けて行くようです）
潜りては何処に顔出す 鳩
会友 平野 昌子

（鳩の生態を良く見えています。あらぬ方にひよいと出てきました）
寄鍋の湯気の向かふの昭和かな
〃

（若干、常套的ですが、中高年の年越しパーティですかね）
寄鍋に耳学問と侍りある
S 32 学金 穂坂 邦光

（面白い。ここぞと聞き耳を立てています。こうした句作りは賛成です）
水鳥や夕日落ち行く西の空
〃

（少し寂しい、然し美しい。冬夕焼けの中、池で休む水鳥が取り残されて…）
屋台酒に寒さを凌ぐ時雨かな
S 30 学電 綿引 貞男

（正に、実感があります。腹の底まで温まりました）
寄鍋の比内地鶏は人気者
〃

（秋田産の美味鶏、私は経験ありませんが、美味しいのでしようね）
笹竹の仄かに濡るる時雨かな
S 38 学電 熊谷 文男

（時雨の情緒が良く表されています。笹竹が良いですね）
水鳥の墨田の船を囲みけり
〃

（隅田川の点景でしょう。冬晴れの一日、川遊びでしょうかね）
寄鍋に今日の釣果の自慢かな
S 34 学原 芝山 佑芳

（寄鍋を囲み、大公望たちの自慢話が始まりました）
落葉松の唸りは時雨呼び込むか
〃

（二つという大自然の摂理もあるのでしょうかね）
静寂を纏ひて降りる水鳥よ
穂坂 芳子（邦光氏夫人）

（静かな山小屋の湖面に翼を休めに降りる水鳥、静寂とはいいものですね）
水鳥に餌をまく園児童唄
〃

（どういう唄でしょうか？可愛らしいですね）

【選者吟】

来宮の楠二千年時雨れけり

としを

寄鍋や沖繩民謡一番手

〃

水鳥の阿鼻叫喚の餌場かな

〃